

推薦者 **松村 美香** まつむら・みか



**[profile]**

東京都生まれ。1985年、中央大学経済学部を卒業後、青年海外協力隊として2年間タイに滞在。帰国後、筑波大学大学院で修士(経営学)を取得。国際開発コンサルタント業務に携わり、カンボジア、インドネシア、モンゴル、エチオピアなどの開発調査に参加。2008年『利権聖域〜ロロ・ジョングランの歌声』で第1回城山三郎経済小説大賞受賞。執筆の傍ら、現在も国際開発コンサルタントとして世界中を飛び回っている。

**私のお薦め本**



『落日燃ゆ』

城山 三郎(新潮文庫)

戦犯として絞首刑になった元首相の最期。史実を考えると広田弘毅はちょっとカッコよすぎ!むしろ潔い生き方を理想とする城山三郎先生の考えを反映しているかもしれません。私は城山先生に憧れて大賞を頂きました。



『不毛地帯』(全5巻)

山崎 豊子(新潮文庫)

シベリア抑留から帰国した大本営の将校が商社マンとして日本の復興に奔走する。経済小説の最高峰。同じ女性として、経済小説家として、すごい…の一言です。



◎『白夜の国のヴァイオリン弾き』

小野寺 誠(講談社文庫)

読み始めたらずまらない。心の隅々を敏感に刺激する絶妙な文章の美しさに敬服です。中央大学の先輩。そして私は高校まで同じだった!!!



◎『利権聖域〜ロロ・ジョングランの歌声』

松村 美香(角川文庫/KADOKAWA)

日本のODAを知ってもらいたくて書いた入門編だから学生にはお勧め。恋愛冒険ミステリーを読んだら国際協力について勉強できた、みたいな小説です。読んでね。



◎『利権鉅脈〜小説ODA』

松村 美香(KADOKAWA)

プロ好みの経済小説なので学生には無理と思っていたら、武蔵高校の生徒がガッツリ読みこなしていました!今の若者はラインの短文しか読まないかと思いきや…やるじゃないか。中大生はどうか。『アフリカッ!』(中央公論新社)は若者に迎合して簡単ですwww。

**message**

中央大学の後輩の皆さま

本企画の主催者「出版白門会」は皆さまの先輩で、出版関連業に在職する、あるいは在職した人や、著作業に係るメンバーで構成する学会です。

当会で初めて取組んだ、「中大生よ、本を読め!」という企画のタイトルは少々高圧的かもしれませんが、2014年の全国大学生協連の調査で、1日の読書時間ゼロの学生が4割もいるという現状に接した時に、思わず先輩が発した言葉だと理解してください。(勿論、中大生諸君は生協連の調査結果とは違っていると信じていますよ)

今回の企画の主旨は、私たちが属する出版業界が、書籍で言えば1996年以降ずっと右肩下がりであるということもありますが、それよりもまず、後輩の皆さんに若いうちに本をたくさん読んでもらい、本の面白さ、新しい世界に出会う喜びを知ってもらいたいとの希望から出たものです。

芥川賞を受賞した又吉直樹氏は最近の講演の中で、「世の中に断定できる事など、そうそうない。一つの事にたいする評価は多様であり、時に矛盾する。そんな矛盾に誠実に向き合うのが純文学の魅力」といった趣旨の事を言っています。

本を読むことによって、0か1かのデジタルの世界ではない、その間にある多様な世界、曖昧な世界に深く思いをいたす事で、人間力が高まるのではないのでしょうか。

「〇〇が薦める本」といった企画はよくある企画です。しかし、皆さんと縁あって同じ大学で青春を送った先輩たちが、どんな本に感銘を受け、自分たちに推薦しているかは、また格別の興味があるのではないかと期待しています。

これらの本の中から、皆さんの人生を変えるような1冊が見つければ、主催者として望外の喜びです。

**出版白門会**

中央大学学生会出版白門会事務局

問い合わせ先 pub.hakumon@gmail.com

ホームページ http://pub-hakumon.jimdo.com/

\*本フェアに関する問い合わせは上記アドレス宛にお願いします。

\*HPは「出版白門会」の語で検索すると上位でヒットします。

スペースの都合で本リーフレットに掲載できなかった選書を含めた選書全点と、いただいた推薦全文は出版白門会のHPに掲載しています。

中大生よ、  
本を読め!

出版界で働く先輩が薦める

100冊の本

◎2015年10月19日[月]~11月20日[金]

◎中大生協書籍店内



推薦者 **渡辺 長武** わたなべ・おさむ



**[profile]**

1940年、北海道和寒市出身。56年士別高校入学よりレスリングを始め、59年中央大学レスリング部に進む。60年フェザー級全日本学生選手権優勝、同級全日本選手権優勝。62年全米選手権フェザー級を全試合フォール勝ちで制し最優秀選手賞を受賞。あまりの強さからアニマルの異名を取る。63年中大卒業後、64年東京オリンピックに出場。金メダル間違いなしの期待を裏切らず、準決勝までの全試合をフォールで勝ち上がり、決勝でも相手を圧倒して見事な優勝を遂げた。五輪後は引退し電通に入社。70年全日本社会人選手権で復活を果たし優勝。公式戦187連勝となる。87年全日本社会人選手権に17年ぶりのカムバックで2勝を上げ、ギネスブックの連勝記録を189に伸ばす。2001年世界マスターズレスリング選手権63kg級準優勝。03年世界マスターズ選手権同級優勝。04年紫綬褒章受章。日本レスリング協会全日本マスターズレスリング連盟理事として活躍しながら、後進の指導にも力を注いでいる。

**私のお薦め本**



◎『「負けは死」と思え』

渡辺 長武(株式会社ニチリン)

宮本武蔵はなぜ死ななかったのか。私の持論では、それは殺されなかったからだ。『「負けは死」と思え』は自叙伝であるが、スポーツ(レスリング)で負けることは、殺されはしないものの、死と同じ十字架を一生背負って生きていくのと、どちらがいいかという話だ。

人生は一度きり。二度無い人生で結果を出せなかった選手は、寝ても覚めても悔やむはずだ。チャンスを逃さないこと、後悔しないこと。その根底にあるのが「負けは死」と云うアニマルイズムである。



『宮本武蔵』(全8冊)

吉川 英治

(吉川英治歴史時代文庫 講談社)



『新版 白鷗号航海記』

栗原 景太郎(マリン企画)



◎『挑戦とは勝つためだ』

渡辺 長武(池田書店)

